

【平成27年度「森林作業道作設オペレーターの育成強化事業」現地検討会開催】

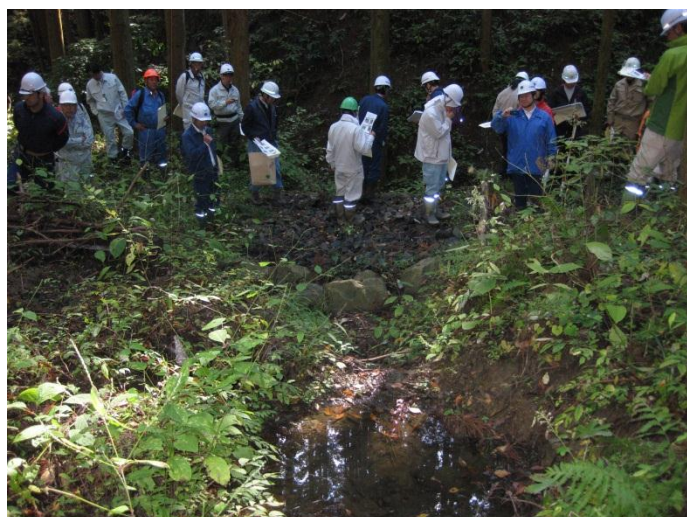
11月5日（木）常陸大宮市高部地内において、標記の検討会が開催されました。この検討会は今年度の林野庁委託事業の一環で開催され、林業事業体、県（福島・栃木・茨城）職員、国有林関係者の約30名が参加しました。

当日は秋晴れのもと、美和木材協同組合事業地内の森林作業道の見学から始まりました。

午前中は、美和木材協同組合から作業道作設の考え方や、留意点について説明があり、参加者からは、「盛土のり面の丸太組工」「洗越し」についてさまざまな意見が出されました。



〔盛土のり面の丸太組工〕



〔洗越しの割り栗石〕

作業道作設に当たっては、できる限り現地の材を活用するので、既製品の購入はほとんど無いとのことで、低コスト化の取組が徹底されていると感じました。

また、作業道作設に当たって一番留意する点は排水処理で、作業道を持続して利用するためには重要なポイントとのことです。

午後からは、（株）森林テクニクス業務部長の鎌滝氏による「壊れにくい道づくり」と題した講義がありました。

講義では、土の性質・盛土の注意点等について話がありました。

参加者からは多くの意見が出され、色々な問題点等を情報共有できた、とのことで意義のある検討会となりました。



〔講義の様子〕